

## 第26回 病態生化学セミナーのご案内

日時：平成21年12月16日（水曜日）午後6時30分～

場所：医学部 看護学科棟3階 会議室

演題：転写研究から見えて来た微生物間相互作用とエイズ発症機構

演者：名古屋市立大学大学院医学系研究科 岡本 尚 先生

良く知られている様に後天性免疫不全症候群(AIDS)の診断基準の多くの項目は原因ウイルス以外の微生物の感染によって引き起こされる病態である。例えば、多くの『日和見』感染症もさることながらカポシ肉腫やB細胞性悪性リンパ腫などは新種のヘルペスウイルス HHV8 によって引き起こされ、ヒトパピローマウイルス HPV によって子宮頸癌や肛門癌および表皮の悪性腫瘍の一部が引き起こされる。これ以外にも、ヘルペスウイルス感染がエイズの病態を進行させることも報告されている。私たちはごく最近、歯周病菌の感染によってエイズウイルスの複製が著明に誘導されることを実験的に証明し、歯周病菌が嫌気環境下で産生する酪酸が HDAC を阻害し、潜伏感染下のエイズウイルスからの転写を活性化させることを明らかにした。この結論から直ちに歯周病によって エイズ病態の進展速度が急速に速まることが予測された。事実、腸管や膣などにも多くの酪酸産生性の嫌気性菌が存在する。これらの結果は、エイズに伴って出現する感染症の分子過程を解析的に調べてゆくことで、複雑と難解を極めるエイズの病態が徐々に解明され、さらに有効な治療法の開発につながる可能性を示唆している。

【岡本 尚】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp